

## 新年度のご挨拶

病院長 武田 正之

1. 附属病院稼働状況  
と再整備進捗状況:

職員の皆様の努力により平成30年も附属病院は順調に稼働し、平成30年度の稼働額は平成29年度の191億4千万円から約200億円に増加しました。手術支援ロボットダヴィンチ Si®を用いたロボット支援内

視鏡下手術は、平成25年6月から開始した前立腺がん、平成29年から開始した腎がんの2つの術式の総件数が、平成30年12月に300件を超え、胃がん、膀胱がんも施設基準を取得しました。

附属病院再整備計画は、平成30年3月に基幹・環境整備が終了して、平成30年10月には新病棟Ⅱ期棟が着工し、令和2年10月の開院を目指しています。その後は、中央診療棟・特殊診療棟の改修、新病棟Ⅲ期棟の建設、外来棟改修・増築の予定です。職員の皆様には一時的にご迷惑をおかけすると思いますが、ご容赦ください。

## 2. 新年度病院目標:

## I. 稼働額205億2千万円

(平成30年度稼働額200億円)

- ① 入院診療単価77,000円以上
- ② 病床稼働率83.5%以上
- ③ 外来診療単価19,000円以上
- ④ 新入院患者数 平均1,100人 / 月以上
- ⑤ DPC 入院期間Ⅱにおける退院率63%以上
- ⑥ DPC 対応クリニカルパス作成と  
パス適応率30%以上
- ⑦ 1日外来患者数1,300人以下  
(延べ外来患者数314,600人以下)

## II. 地域医療連携

逆紹介率65%以上

## III. 経費削減

- ① 医療費率38.6%以下
- ② 後発医薬品の採用比率  
(購入価薬価ベース) 10.0%以上

## IV. 7対1入院基本料算定要件

今年度の目標値は、「重症度、医療・看護必要度の該当患者基準割合26% (基準Ⅱ)」としました。

以上の具体的な数値は、病院経営上極めて重要な指標です。

## 3. 入退院支援室について:

新病棟Ⅱ期棟の開院時に、全予定入院患者を対象とし、「入退院支援センター」と「周術期センター」機能を備えた「患者総合サポートセンター(仮称)」を稼働する予定です。完成した暁には、大幅な経費削減と収益増加、患者サービスの向上が期待できます。

## 4. 初期臨床研修医マッチング、新専門医制度による専門研修医マッチング結果:

今年度の初期臨床研修医として、本院に応募された医師は40名でマッチ率は100%(定員40名)、山梨県内での初期研修医は70名(マッチ率96%)といずれも過去最高でした。新専門医制度による専門研修医マッチングでは、今年度の県内3年目の医師採用数が57名と増加しました。

## 最後に:

本院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」とともに「理想の大学病院」を目指した挑戦を続けるので、本年度もよろしくお願ひいたします。

## 退任にあたって－ 36年間の眼科手術の進歩－

前眼科長 飯島 裕幸



旧山梨医科大学医学部附属病院が昭和58年10月に開院して以来、私は36年間、本院の眼科診療に携わってきました。後半の20年間は眼科科長として、地域の眼科医療の充実に努め、平成31年3月無事退職いたしました。

この間に眼科診療は急速に発展し、なかでも眼科手術の進歩には目覚ましいものがありました。昭和の時代の白内障手術は、術後には分厚い凸レンズ眼鏡が必要となる水晶体嚢内摘出術(ICCE)が主体でしたが、その後、眼内レンズ(IOL)移植が可能な水晶体嚢外摘出術(ECCE)に移行しました。さらに最新の小切開での超音波乳化吸引術(PEA)では、手術翌日から眼鏡

なしで良好な裸眼視力が得られるようになりました。また、かつては1回の手術では治りにくく、再手術を繰り返すことも多かった強膜バックリング手術による裂孔原性網膜剝離は、ガスあるいはシリコンオイル硝子体置換術を導入した硝子体切除術が主流となり、最近では、広角眼底観察システムを使用して、1時間程度の短時間で、初回手術での網膜復位率90%以上の安全な手術に変わってきました。以前は治療不能であった黄斑円孔や網膜上膜などの黄斑疾患も、硝子体手術で治療できるようになっています。緑内障でも術中の隅角鏡使用による超短時間手術が導入され、眼科手術の短時間化が進みました。その結果、年間手術件数は開院当初の300件から1,300件へと増加しています。さらなる眼科治療技術の進歩で、より多くの患者さんの失明予防と視覚の質(QOV)の改善が得られることを期待します。

## 退任あいさつ

前頭頸部・耳鼻咽喉科長 増山 敬祐



今年の3月31日をもって山梨大学医学部附属病院を定年退職いたしました。16年間、本院の職員の皆様にはお世話になり本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

私は平成15年1月に熊本大学から山梨大学に赴任してまいりました。山梨の第一印象として、熊本より寒いところ、また東京に近いのに意外と田舎だなと驚いたものでした。しかしながら、美味しいぶどうとワインを味わうことができ非常に満足しています。赴任した年は医局に4人の新人が入局しました。翌年から現行の臨床研修制度が始まり、初期研修期間の2年間と、その後3年間実質入局者ゼロというピンチの時代がありました。臨床と学生教育だけはと必死に取り組みましたところ、平成21年に医学科5年生から最優秀Bed Side Teaching賞をいただき本当に嬉しかったです。学生さんに育てていただいたという思いが強くとっても感謝しています。入局者も増え始めた8

年位前から、耳鼻咽喉科診療の幅も広がってきました。それは言語聴覚士STさんが加入してからです。彼らの存在は耳鼻咽喉科の診療の質を大きく向上させました。すなわち、人工内耳の手術、がんリハビリテーションの実施、嚥下障害に対する評価とリハビリ介入手順のマニュアル化、入院患者さんの誤嚥リスクに対する医療安全への意識の高まり、など。現在リハビリテーション部も含め4名のSTさんがいますが足りないのでぜひ増員をお願いしたいと思います。手術室では、麻酔科の先生方・看護師さんはじめ、他の診療科の先生方との連携でオペを安全に幅広くでき本当にありがとうございました。

最後に、平成29年に念願のアレルギーセンターを立ち上げることができました。立ち上げには上條篤埼玉医科大学教授に尽力いただきました。昨年は山梨県アレルギー疾患拠点病院に指定され、さらにセンターの事業が厚労省のアレルギー疾患対策拠点病院モデル事業に採択されました。今後、診療科を超えた横断的なセンターとして機能することを願っています。しばらくはセンター長として本院に貢献したいと考えておりますので、ご指導よろしくお願いたします。本当に長い間お世話になり、ありがとうございました。

## 退任あいさつ

前看護部長、前副病院長（看護・患者サービス担当） 佐藤 あけみ



長期に渡り、ご支援・ご指導ありがとうございました。

昭和63年4月に新採用者として入職し5階東病棟に配属されました。その後、4階西病棟、医療情報担当を経て看護師長として4階西病棟、5階東病棟を

経験しました。副看護部長を5年間、看護部長を3年間務めました。30年の山梨大学医学部附属病院の実り多い看護師人生でした。30年間の時の流れの中、特に副看護部長・看護部長になってからの医療界・看護界の進歩と変化は凄まじかったです。地域包括ケアシステムの推進を求められる中、本院の医療・看護は何を求められ、何をすべきか。毎日、葛藤した日々でした。看護師長会議をはじめ、看護部全体で課題一つ一つを検討し解決していく中で本院の看護部で大切にしている事、向かって行く方向を見いだして来ました。それは、高度

急性期を支える安全で安心した看護の提供を実践する「ジェネラリストの育成」です。3年目以下の看護師が半数以上の本院の看護部の中で「キャリア開発ラダーシステム」の下、一人一人がキャリアという階段を一步一步、個々のスピードで登り、自立した看護師を目指す。これこそが今本院の看護部に求められている姿だと確信しています。志半ばではありませんが、この思いは後輩達に託したいと思っております。プライベートでも、入職当時から職員サッカー部マネージャー（自称）やテニス・スキー・ゴルフと先生方をはじめ多くの部署の方々と交流させていただき沢山の思い出を作らせていただきました。感謝の気持ちで一杯です。

最後になりますが、山梨大学医学部附属病院の御発展と皆様のますますのご活躍をお祈りしております。お世話になり本当にありがとうございました。

## 「深い河は音を出さない」

前看護部長補佐 井上 貴美



東京医科歯科大学医学部附属病院で4年間、山梨大学医学部附属病院で26年間の合わせて30年間、大変お世話になりました。7階西病棟に8年間、7階東病棟に3年間、緩和ケアチームでは10年間、そして最後は、教育担当として5年間勤務いたしました。印象的な経験としては、富士山ボランティアや東日本大震災の救護班活動がありました。人生観が変わるくらいの貴重な体験ができました。また、緩和ケア認定看護師資格取得や大学院で修士課程を修了し、職業を得てからも学ぶことの大切さを知ることができました。そのような環境を作ってくださったことに感謝しています。

私は看護師1年目からずっとがん看護に携わ

り、それが自分のライフワークになっていました。緩和ケアチーム専従看護師になったことも、縁があつてのことだと思えました。診療科の医師・セクションの看護師長やスタッフ・薬剤部・栄養管理部など、本当に緩和ケアチームの活動を支援してくださりました。「深い河は音を出さない」は私のポリシーです。深い河のようにゆったり穏やかに、そして小さいことにとらわれないようにやってきたことで、「緩和ケア」が本院では当たり前のことになってきたように思えます。（ちょっと過大評価でしょうか）

山梨大学医学部附属病院は、本当に居心地がよい病院でしたので、ここから巣立つことがとても不安です。ここでの多くの経験を強みとしてこれからも精進してまいります。今まで本当にありがとうございました。

## 退任あいさつ

前 ICU病棟看護師長 岡村 真由美

この度、平成31年3月31日に無事定年退職を迎えることができました。旧山梨医科大学医学部附属病院に入職し、内科、外科、外来、GCU、ICUと新生児から成人、慢性期から超急性期の病棟を経験し、いろいろな職種の方々と関わり退職を迎えられたことは、ひとえに皆様のおかげであると感じています。

長年勤務している中で感じたことは、病に倒れ自分で今までできたことが、入院生活でできなくなってしまうこと。入院生活は、時間に縛られ治療中は家族と離れ自由にできなくなってしまうことに、ジレンマを感じていました。しかし、ターミナル期にあった患者さんが、入院中自分の好きなものを宅配でとりよせ、喫煙に行くことに生きがいを感じ、入院生活の規則に従うことができなかつた際に、スタッフ皆で患者さんの要望と治療に参加ができるよう、患者さん、ご家族とともに考え、最後は自宅で亡くなることのできたこと。退院の際には「我がままいっぱい言ったけど、ありがとう」という言葉を聞くことのできたことは、やはりその人が

その人らしくいられるよう関わることが看護師にとって大切なことであると実感いたしました。

また、看護師長として集中治療部にて5年間管理をさせていただき、質の維持向上を目指してまいりました。中でも一昨年受けた共同指導の際には、医師、看護師、事務方が一体となって取り組み、良い評価が得られたことは、本当にチームがひとつになったと感じたことでした。いつも、誰かに支えられ今日にいたるまで成長できたことは感謝の一言です。今後は、新天地で地域看護に貢献できれば幸いです。



## 退任あいさつ

前再整備・病床管理担当看護師長 小野 さつき

平成31年3月吉日、ずーと励まし続けてくれた芙蓉峰・八ヶ岳などの山々が、定年を迎えた私の心を温かく包んでくれています。

学生時代引っ込み思案の私が「真心を白衣に包み、自らの力の限り、病む人の杖ともなりて」の校歌のような看護師になりたいと思いを抱き、初めての職場は大好きな小児科でした。その中でつらい思い出は、頑張って治療を受けたにも関わらず、亡くなっていった子供たちとの出会いでした。それからの私は、何事にも精一杯生きているか、子供たちに恥ずかしくない日々を過ごしているか問いかけながら、仕事をしてきました。その思いが強いあまり、周囲のことが見えなく、周りの人々にご迷惑をおかけしました。

看護師生活を振り返った時、多くの看護仲間や他部門の方々に支えられて仕事をする事が出来ました。特に初めてGRMになった時、何もわからない私でしたが、研修で学んだことを本院で実践したいと思いました。その当時の故塚原重雄病院長、故中澤眞平安全管理室長が、「小野君がやりたいことがあるのなら、何でもやってみなさい」と、言って下さったこと。

また、故平川美代部長からは、組織とは「共通目的・協働意欲・コミュニケーション」の3要素で成り立っており、師長の役割は「判断・決断・責任」が大切と教えられました。看護部という組織、病院という組織の中で、自分達は守られ生かしてもらっていると心強く感じることが出来ました。

こんな私を今日まで温かく支えてくださった多くの皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。これからは少し力を抜いて、サポートナースとして、皆様が働きやすくなるように支援できたら幸いです。



## 退任あいさつ

放射線部 前診療放射線技師長 坂本 肇



この度、平成31年3月31日をもち、本院での長きにわたる勤務を経て退職いたしました。昭和59年4月、病院開院の半年後に放射線部へ入職し、あっという間で気が付いたら35年が過ぎていました。この間、病院の皆さま、放射線部の部員には、ご指導・ご支援していただき、心より感謝申し上げます。

入職当時、新設大学病院にて半年前に開院したばかりの綺麗な新しい病院でした。撮影室も半分程度は装置が入っておらず、放射線治療装置やMRI装置はありません。その頃の部員は、前より入職していた7名、そして私と同期7名の合計14名の技師でした。現在では放射線機器も増え技師数も32名となっており、開院当時では考えられない検査・治療件数にて診療を

行っております。私は30歳代前半にて血管撮影領域を任せ主任に昇格し、それ以来、血管撮影領域に専念しました。血管撮影・IVRに関連しました診療科の医師の皆さまには、色々ご指導いただき、また、一緒に先進的な手技の取り入れなど、数々の貴重な経験をさせていただき、充実した日々にて診療に貢献できたのではと思っております。

最後の7年間は、本院3代目となる技師長へ就任させていただき、初年に新棟への一部移動から始まり、状況把握と将来に向けての装置更新、診療ニーズへの対応など微力ながら診療科より頼られる部門となるように努めてきました。各診療科、事務部の皆さまには、ご協力・ご理解をいただき、ありがとうございました。今後も皆さまの放射線部へのご支援をお願いしまして退任の挨拶とさせていただきます。

## 「地域に根差した病院にこれからも」

前医学域管理課長 高山 俊雄



昭和59年6月に農林水産省本省から山梨医科大学（現山梨大学医学部）にUターンし、今年でちょうど35年となりました。その間、平成14年10月の山梨大学との「統合」から「法人化」の4年半を大学本部に勤務した以外

は、医学部での勤務でありました。特に平成19年、課長補佐として配属された医事課勤務からの11年間は私にとって特に印象に残っている期間です。

医科大学出身でありながら、医事課勤務経験がない状態で安全管理担当となり、最初は正直電話をとるのも怖く、患者さんからのクレームを聴くスキルもない「ずぶの素人」でしたが、安全管理室での島田室長（現学長）、岩下GRM（元看護部長）をはじめとする歴代の室長・GRMと医療安全について日々取り組ん

だことや、患者対応セミナー受講や全国の安全管理の仲間と切磋琢磨したこと、また、管理課で防災に関わったことが、私自身のライフワークと言っても良い今の「立ち位置」を築くことに繋がっています。室長・GRMは私にとって『戦友』という存在でした。

思えば地元玉穂村（現中央市）に山梨医科大学が開校したことが、私の人生の大きな転換点となりました。今年3月で定年となりましたが、再雇用として今しばらく一緒に働かせていただきます。VF甲府と共に週末は小瀬にいて、東京マラソンを走られる限り走り、そして病院からのPHSが届く距離という恐ろしい（笑）所に住んでいることを活かし、再雇用を経た後の人生も『地域に根差した病院の発展のため』何らかの形で病院に恩返し続けたいと考えています。

これまでの病院スタッフの皆様からのご支援に感謝いたしますと共に、今後ともご指導くださりますよう、よろしく願いいたします。

# 病院各部門代表者

## 病院長・副病院長

病院長	副病院長								
	財務管理・経営改善・地域医療担当	病床管理・運営改善担当	労務管理・臨床研究担当	臨床研修・防災担当	医療安全(医療の質・安全管理)・病院再整備担当	保険診療・医療安全(感染制御)担当	看護・患者サービス担当	業務担当	総務担当
武田 正之	佐藤 弥	榎本 信幸	平田 修司	松田 兼一	木内 博之	波呂 浩孝	古屋 塩美	鈴木 正彦	山田 芳男

## 中央診療部門等

部門名	部長等	副部長等
検査部	井上 克枝	高野 勝弘 多田 正人
手術部	石山 忠彦	杉田 俊江
放射線部	大西 洋	本杉 宇太郎 佐野 尚樹 相川 良人
材料部	松川 隆	
輸血細胞治療部	井上 克枝	高野 勝弘
救急部	森口 武史	
集中治療部	松田 兼一	後藤 順子
新生児集中治療部	犬飼 岳史	中根 貴弥
病理部	近藤 哲夫	中澤 匡男 中澤 久美子
分娩部	平田 修司	笠井 剛
リハビリテーション部	波呂 浩孝	小尾 伸二
血液浄化療法部	深澤 瑞也	

部門名	部長等	副部長等
光学医療診療部	佐藤 公	山口 達也
総合診療部	佐藤 弥	針井 則一
臨床研究連携推進部	岩崎 甫	手塚 春樹
MEセンター	中島 博之	
医療チームセンター	飯嶋 哲也	
生殖医療センター	笠井 剛	
腫瘍センター	桐戸 敬太	
肝疾患センター	井上 泰輔	中山 康弘
口腔インプラント治療センター	上木 耕一郎	
遺伝子疾患診療センター	中根 貴弥	
循環器救急センター	久木山 清貴	尾畑 純栄
リウマチ膠原病センター	波呂 浩孝	
アレルギーセンター	増山 敬祐	中尾 篤人 三井 広 松岡 伴和

部門名	部長等	副部長等
IVRセンター	大西 洋	荒木 拓次 岡田 大樹
てんかんセンター	木内 博之	金村 英秋
病院経営管理部	佐藤 弥	
栄養管理部	小林 貴子	
医療の質・安全管理部	木内 博之	荒神 裕之
感染制御部	波呂 浩孝	井上 修
薬剤部	鈴木 正彦	河田 圭司 手塚 春樹 橋田 文彦
医療福祉支援センター	端 晶彦	市川 二郎
臨床教育部	松田 兼一	
学生臨床教育センター	鈴木 章司	
臨床教育センター	板倉 淳	本杉 宇太郎
専門医育成支援センター	佐藤 弥	
シミュレーションセンター	板倉 淳	

## 看護部

看護部長	副看護部長			
	総務担当	業務担当	質保証担当	教育担当
古屋 塩美	大門 恵美	村松 陽子	小泉 夫美子	杉山 千里

部門名	看護師長	副看護師長
安全対策担当(GRM)	伊藤 雅美	山中 浩代
感染管理担当(ICN)	窪川 佳世	
医療福祉担当	穴水 美和	松土 裕子、茂手木 智美
緩和ケア担当	中嶋 君枝	
皮膚・排泄ケア担当	金丸 明美	
管理師長(夜勤師長)	牧野 基美	
医療情報・診療報酬担当	齊藤 幸美	
教育担当	茶谷 直子	磯野 絵美、細野 英伸
研究・実習担当	小澤 和子	
病院再整備・病床管理担当	山口 奈巳	
特定行為研修担当	永田 明子	
入院前支援担当	三平 まゆみ	
外来	大芝 まゆみ	戸栗 宏子、大森 ゆかり、日向 恵
手術部	杉田 俊江	櫻木かおり、土屋一枝、名取貴史、上原 良江
材料部	山本 秀美	
ICU病棟	山本 智子	谷戸 るみ、坂本 友紀、長澤 美佐子、渡辺 裕美

部門名	看護師長	副看護師長
NICU病棟	萩原 千代子	寺島 由美子、清水 陽子
GCU病棟	島田 昌子	田邊 玲子、小池 美和
1階西病棟	金丸 紀子	青木 真理、小倉 幸子、中込 彩
2階西病棟	望月 恵美	高橋 里香、朝岡 菜美
3階西病棟	河西 典子	田草 裕美子、大久保 香織、中込 美幸
4階西病棟	山本 ゆかり	赤池 陽子、大村 希依、藤内 さやか
6階西病棟	金子 春美	青柳 しづか、松田 旬美、秋山 友梨
7階西病棟	蓮沼 知津子	内田 純子、藤原 由理香、武田 陽子
4階南病棟	河手 久美	伊藤 由香、名取 佐知子、齊藤 渚
5階南病棟	矢崎 正浩	中柄 創和、清水 美紀、溝口 真由美
6階南病棟	岩澤 久美	青木 絵梨子、杉本 美貴、山本 浩夢
7階南病棟	北井 朋美	神田 藍、山本 瑠美、相川 真弓
4階北病棟	竹田 礼子	橋本 佳奈子、長澤 良美、遠藤 可奈子
5階北病棟	鈴木 聖美	伊藤 祥子、土橋 怜奈、望月 あゆみ
6階北病棟	渡邊 理映子	三枝 栄江、古川 明美、後藤 詩乃歩
7階北病棟	平野 みのり	辻 稔、坂野 雅子、手塚 絵里子

## 事務部

医学域事務部長	課・室名	課・室長	補佐・専門員
	山田 芳男	医学域総務課	小林 充
臨床教育支援室		仲嶋 宏治	
看護部支援室		小林 充	
医学域学務課		飯野 和彦	島崎 靖、乙黒 健、福田 英彦

課・室名	課・室長	補佐・専門員
医学域管理課	伏見 幸夫	大和 正基、浅川 辰仁、田中 純子
医学域医事課	望月 真樹	萩原 正直、有野 佳江、東条 加代子 弦間 芳典、井上 心
病院経営企画課	佐藤 康樹	杉山 和己
医療情報室	山本 洋一	

赤字:変更箇所

## 中央診療棟・特殊診療棟の改修工事が始まります

病院経営企画課 再整備企画グループリーダー 大内 寿子

平成31年度より中央診療棟・特殊診療棟の改修工事が始まります。現在この先行工事として、中央病歴室跡地に臨床研究連携推進部の拡張整備を行っています。臨床研究連携推進部の改修・移転完了後の8月より本格的に各エリアで改修工事を行っていきます。以下に簡単ですが、概要を紹介いたします。

特殊診療棟は1階に産科外来、2階に婦人科外来、3階に生殖医療センターの拡張整備を行います。患者さんのプライバシーと診療スペースを考慮した診察室を設置します。開設は令和2年5月を予定しています。

中央診療棟1階放射線部はRI検査室、受付周り、読影室、MRI－CT棟の待合の改修工事を予定しています。RI排気ダクトの新設、RI検査室の一部取り壊しのための内部改修等を行います。

また、この工事に並行して中央診療棟エレベーター増設工事を行います。工事終了後に外来棟正面入り口エレベーター、食堂(クロスカフェ)内の柱、一般廊下の防火扉の改修工事も予定しています。

中央診療棟2階検査部は旧病理部跡地を利用して順次拡張整備を行っていきます。先ず細菌検査室、遺伝子検査室、生化学血清血液検査室を整備します。また、迅速検査室の改修前に仮設緊急検査室の整備を行います。令和2年2月より、迅速検査室、血液検査室改修工事を行います。開設は令和2年7月を予定しています。並行して令和2年2月より生理検査部門の改修を行い、各検査室の増室と中待合の整備をします。工事は仮設での運用が難しいシールドルームの整備から開始し、その後生理検査部門と周辺諸室を仮移転して行います。開設は令和2年12月を予定しています。令和3年9月より、現在の迅速検査室1に採血室の拡張整備を順次行います。現在廊下にある待合スペースは採血室内に設ける計画です。採血室全体の改修完了は令和3年6月を予定しています。令和3年2月から採血室と院内学級跡地を利用して輸血細胞治療部の拡張整備を行います。開設は令和4年2月を予定しています。

また、この工事に並行してI期棟集中治療室側に集中治療室看護師の休憩室も整備します。集中治療室内のスペースの有効活用と、休憩室

も含めて集中治療室区画とすることで看護配置の効率化を目指します。

中央診療棟3階旧手術部跡地を利用して、先ずは血液浄化療法部の拡張整備を行います。人工透析室は透析ベッドを3床増床して15床整備します。そのうち1床は人工透析室入口に配置し陰陽圧切り替え可能な個室とします。また、腎不全・透析外来機能も部内に整備します。開設は令和2年5月を予定しています。同時期には、肝疾患センター、病理診断科、手術部の諸室等の整備も行います。

血液浄化療法部移転後、令和2年6月より跡地を利用して光学医療診療部の拡張整備を行います。上部内視鏡4室、下部内視鏡2室に加え、現在は放射線部で行っているX線検査室を2室整備する計画です。また前処置室やリカバリースペースも整備します。開設は令和3年2月を予定しています。

令和3年7月から光学医療診療部と物流センター(物流センターは令和2年10月に新病棟II期棟に移転)跡地を利用して、リハビリテーション部の拡張整備を行います。現在、理学療法と作業療法は部屋を共有して施行していますが、理学療法室、作業療法室、物理療法室を独立させ各室整備します。新たに心臓リハビリ機能訓練室も整備予定です。開設は令和4年2月を予定しています。

中央診療棟4階は、本工事期間内に南北でエリアと時期を分けて、内装、照明、空調等の改修工事を行います。改修終了後には看護部スタッフの更衣室とする予定です。

中央診療棟・特殊診療棟改修は3年がかりの長期間の工事になります。工事中は一時的な検査室・エレベーター、カンファレンスルームの利用停止、また診療スペースの移転、動線制限などご不便ご迷惑をおかけしますが、より良い病院造りのため、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

## 「平成30年医学教育等関係業務功労者」の表彰

平成31年3月6日、文部科学省において、平成30年医学教育等関係業務功労者表彰式が行われ、本院では手塚春樹副薬剤部長(薬剤部)、興水嘉仁技術専門職員(病理部)が功労者として表彰されました。これは、医学または歯学に関する教育研究もしくは患者診療等に係る補助的業務に長年従事し、その功労が顕著で他の模範となっている職員を表彰するものです。

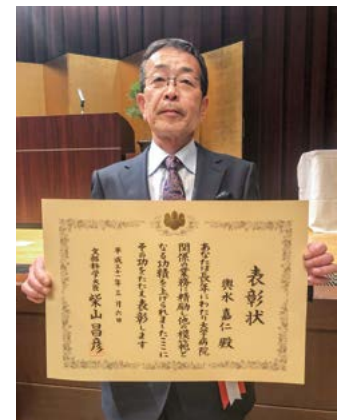
### 【表彰者のコメント】

#### 薬剤部 手塚 春樹 副薬剤部長

この度は「医学教育等関係業務功労者表彰」を受章させていただき、誠にありがとうございました。今回の受章はひとりの力ではなく、開院以来ご指導くださった諸先輩、同僚の方々のご支援、ご協力の賜物であると感謝しております。今後も医療の質の向上、後進の育成に貢献できるよう、微力ではありますが努力していきたいと思っております。

#### 病理部 興水 嘉仁 技術専門職員

この度は「医学教育等関係業務功労者表彰」をいただき大変光栄なことであります。昭和58年に山梨医科大学に採用され、病理学教授川生 明先生のご指導を始めとして、多くの諸先生方、同僚の方々のご支援、ご協力により受章できたものと感謝しております。今後もこの榮譽を励みとし、微力ではありますが後進への育成、医療の質の向上などに励み、より一層の精進を重ねていきたいと思っております。



## 受診報告書等の作成について

医事課 専門員(患者支援担当) 東条 加代子

平成29年度から、円滑な地域医療連携を構築していくために、医療機関より紹介いただいた患者さんの診療状況等について紹介元への書面による受診報告書の作成を強化してきました。2年前に比べ作成率は96%前後まで上がりました。地域医療連携施設登録証の発行にあたり、地域の医療機関へ伺いますと、受診報告書及び退院報告書は地域の医師にとって、患者さんのその後を知るための大切な情報だという声をいただきます。今後とも作成について、ご協力をお願いします。なお、病状が安定した患者さんには、地域の医療機関による診療を促していただき、その際には診療情報提供書による逆紹介をお願いします。

また、本院では診断書等が必要な患者さんは「診断書・証明書窓口」にて申込みいただき、2週間後に交付することとなっています。そのために先生方には10日間での作成をお願いしています。診断書

等によっては医師事務作業補助者が一部の代行入力をした後にご依頼するため、患者さんが申込みされた翌日に先生方のお手元に届かない場合があります。お忙しい中、作成期間に余裕が無く大変申し訳ありませんが、患者さんにとって診断書等の提出は、休業補償、医療費保障及び扶助等につながる大切なものです。期限内に患者さんにお渡しできるようご協力をお願いします。

なお、やむを得ず期限内での作成が困難な場合には「診断書・証明書窓口」に事前のご連絡をいただけますよう併せてお願いします。

